

(社会科・国語科)

「自分の考えを持ち、表現できる子どもを育てる」

—社会科・国語科の指導を通して—

大阪市立東淡路小学校 鶴賀一也

1 研究主題設定の理由

本校では、平成 27 年度に「話し合い活動を通して、考える力、伝える力を育てる。」という研究主題で、様々な言語活動に取り組んだ。その結果、児童の話す力は高まっていることが分かった。一方、本校の課題として、活発に話し合っているが、自分の考えを書けない児童や、話し合う前に自分の考えを持っていない児童が多くいることが分かった。そこで、平成 28 年度から今年度までの 2 年間は、研究主題を「自分の考えを持ち、表現できる子どもを育てる～社会科・国語科の指導を通して～」と設定し、実践を続けた。

2 授業の中における問題点

研究教科を社会科として、授業の中での問題点を考えた。指導者の問題として、解決意欲の持てない課題にしていること、発問があいまいなため、児童が考えを持ちにくくなっていることが判明した。また、資料の質・量が適切ではなく、調べる段階で児童がつまづいていることも分かった。さらに、児童の問題として、情報を読み取る力が不足していることや、考えを書く経験が少ないことも分かった。

3 研究の視点と主な実践

視点(1) 書く基礎的な力をつける

- ① ノートに文字を書くこと自体を嫌がる児童や書くのに時間がかかる児童が多くいたため、視写教材を活用した。
- ② 聞いて書く力を伸ばすため、校長先生のお話をメモするメモ朝会を行った。

視点(2) 調べたことを書く力をつける

- ① 必要な情報を探し出せるように、グラフの読み方の指導を行った。また、タブレットを活用して資料を配布した。
- ② 社会科の単元の最後に、疑問に思ったことをグループに分かれて調べた。調べたことは、ポスターにまとめ、ポスターセッションを行った。
- ③ ノートに調べたことを書く力を高めるために、保護者に聞き取りを行い読み取りたくなる資料作りを行った。また、文書資料の文言を工夫し、全員が読み取りやすい資料をつくった。

視点(3) 自分の考えを持ち、書く力をつける

- ① 低学年の国語科では、言葉による表現を楽しめるようにすることを重視して、言語活動を行った。詩を書く単位では、言葉を集め・選ぶ力をつけるためにイメージマップを活用した。
- ② 社会科の授業の導入では、児童が問いを持ち、自分の考えを持ちたくなるように課題設定を工夫した。
- ③ ノートに考えたことを書く力を高めるために、児童の考えを深めるための発問を検討し、話し合いの形態を工夫した。また、ノートの肯定的な評価を継続的に行った。

4 研究の成果

視点（１） 書く基礎的な力をつける

- ① 視写を継続したことにより、言葉をまとまりとして捉えられるようになり、速く丁寧に書く力がついた。
- ② メモ朝会を通して話を聞く意識が高まった。また、聞いた情報を再構成して、自分の考えを文章にする力も高まった。

視点（２） 調べたことを書く力をつける

- ① タブレットの使用により、資料を素早く切り替えて、必要だと思う資料を選べるようになった。ズーム機能を活用して、資料を見やすく拡大し、分かったことをノートに書くこともできた。
- ② ポスター作りを通して、図書やインターネットなどのツールを使って情報を集め、整理しまとめる力がついた。ポスターセッションによる発表では、まとめたことを表現し伝える力が向上した。
- ③ 身近な人の情報を資料にしたことにより、児童はそれが自分と関係のあることなのだと捉え、主体的に調べた。また、文言の工夫により、学級の全員が自分で必要な情報を調べて書くことができた。

視点（３） 自分の考えを持ち、書く力をつける

- ① イメージマップの使用により、心が動いた事柄を短い言葉でつなげて書き表すことができた。また、出来上がった詩の言葉の順序を入れ替えたり、使う言葉を変えたりして、変化する詩の味わいに気づくこともできた
- ② 児童が知っている事実とは異なる事実（昔の道具が実は自分の家にもある）を提示することにより、児童は授業の課題を「自分の問い」として持つことができた。
- ③ 発問で児童の考えを揺さぶり、多様な形態での話し合いを進めたことにより、全員の児童が自分の考えを持ち、友達の意見と比べたり合わせたりして、さらに自分の考えを深め、ノートに書くことができた。また、良いノートを学級で紹介して、ノートの評価基準を児童と共有した。その上で授業後にノートを集め、肯定的な評価を繰り返した。これにより、書き方が分からなかった児童が書けるようになり、学級全体の文章の質が高まった。

5 今後の課題

（１） 主体的になる問いの持たせ方

社会科の単元導入時には、児童に何が分かっていないのかを気づかせ、自分のこととして感じられるように学習問題作りを工夫する。

（２） 対話的な学びの実現

ただ友達の意見を聞いて写すのではなく、「それはどういうことなのか」と掘り下げて聞けるような子どもたちに育てていくための手立てを追及する。

（３） 書く基礎的な力のさらなる向上

理由を説明する書き方や、気持ちを伝えるための言葉など学年に応じた基本的な文型の習得を進める。個の書く力に応じた支援方法・授業づくりを行う。